



Sun Cluster Data Service for SWIFTAlliance Gateway ガイド (Solaris OS 版)

SPARC 版 Alpha

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-3008-10
2005 年 8 月, Revision A

Sun Proprietary/Confidential: Need to Know

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザーインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Cluster Data Service for SWIFTEAlliance Gateway Guide for Solaris OS

Part No: 819-1249-10

Revision A



050812@12762



Sun Proprietary/Confidential: Need to Know

目次

はじめに 5

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成 11

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の概要 11

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成のプロセスの概要 12

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成に関する計画 13

構成に関する制限事項 13

構成に関する要件 14

構成上の考慮事項 14

構成計画に関する質問 15

SWIFTAlliance Gateway のインストールおよび構成 16

▼ SWIFTAlliance Gateway のインストールおよび構成の方法 16

▼ SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成を確認する方法 19

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージのインストール 20

▼ Web Start プログラムを使用した Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージのインストール方法 20

▼ `scinstall` ユーティリティを使用して Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージをインストールする 22

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成 22

▼ フェイルオーバーサービスとして Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway を登録および構成する方法 23

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成の確認 25

▼ Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成を確認する 25

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターの調整 25

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のデバッグ 27

▼ Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のデバッグフラグの設定方法 27

索引 29

はじめに

『Sun Cluster Data Service for SWIFTAlliance Gateway ガイド (Solaris OS 版)』は、Sun™ Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成について説明します。

このマニュアルは、Sun のソフトウェアとハードウェアについて幅広い知識を持っている上級システム管理者を対象としています。販売活動のガイドとしては使用しないでください。このマニュアルを読む前に、システムの必要条件を確認し、適切な装置とソフトウェアを購入しておく必要があります。

このマニュアルで説明されている作業手順を行うには、Solaris™ オペレーティングシステムに関する知識と、Sun Cluster とともに使用するボリューム管理ソフトウェアに関する専門知識が必要です。

UNIX コマンド

このマニュアルでは、Sun Cluster データサービスのインストールと構成に必要なコマンドについて説明しています。このマニュアルでは、基本的な UNIX® コマンドの包括的な情報や手順 (システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成など) については説明しません。基本的な UNIX コマンドに関する情報および手順については、以下を参照してください。

- Solaris オペレーティングシステムのオンラインドキュメント
- Solaris オペレーティングシステムのマニュアルページ
- システムに付属するその他のソフトウェアマニュアル

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

関連マニュアル

関連する Sun Cluster トピックについての情報は、以下の表に示すマニュアルを参照してください。Sun Cluster 関連のマニュアルはすべて、<http://docs.sun.com> に挙げられています。

トピック	関連文書
データサービスの管理	『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』 各データサービスガイド
概念	『Sun Cluster の概念 (Solaris OS 版)』
概要	『Sun Cluster の概要 (Solaris OS 版)』
ソフトウェアのインストール	『Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』
システム管理	『Sun Cluster のシステム管理 (Solaris OS 版)』
ハードウェア管理	『Sun Cluster 3.0-3.1 Hardware Administration Manual for Solaris OS』 各ハードウェア管理ガイド
データサービスの開発	『Sun Cluster データサービス開発ガイド (Solaris OS 版)』
エラーメッセージ	『Sun Cluster Error Messages Guide for Solaris OS』
コマンドと機能	『Sun Cluster Reference Manual for Solaris OS』

Sun Cluster のマニュアルの完全なリストについては、お使いの Sun Cluster のリリースノート <http://docs.sun.com> で参照してください。

関連するサン以外の Web サイトの引用

このマニュアル内で引用するサン以外の URL では、補足的な関連情報が得られません。

注 - このマニュアルで説明するサン以外の Web サイトの利用については、サンは責任を負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを通じて利用可能な、コンテンツ、広告、製品、その他の素材について、Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

製品のトレーニング

Sun では、各種のインストラクタ指導によるコースや自由なペースで進めることができるコースを通し、さまざまな Sun 技術のトレーニングを提供しています。Sun が提供しているトレーニングコースの情報や、クラスに参加する方法などについては、Sun Microsystems Training (<http://training.sun.com/>) を参照してください。

問い合わせについて

Sun Cluster をインストールまたは使用しているときに問題が発生した場合は、ご購入先に連絡し、次の情報をお伝えください。

- 名前と電子メールアドレス (利用している場合)
- 会社名、住所、および電話番号
- ご使用のシステムのモデルとシリアル番号
- Solaris オペレーティングシステムのバージョン番号 (例: Solaris 8)
- Sun Cluster のバージョン番号 (例: Sun Cluster 3.0)

ご購入先に連絡するときは、次のコマンドを使用して、システムの各ノードに関する情報を集めます。

コマンド	機能
<code>prtconf -v</code>	システムメモリーのサイズと周辺デバイス情報を表示します
<code>psrinfo -v</code>	プロセッサの情報を表示します
<code>showrev -p</code>	インストールされているパッチを報告します
<code>SPARC:prtdiag -v</code>	システム診断情報を表示します
<code>scinstall -pv</code>	Sun Cluster のリリースおよびパッケージのバージョン情報を表示します

上記の情報にあわせて、`/var/adm/messages` ファイルの内容もご購入先にお知らせください。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成

この章では、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成の方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 11 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の概要」
- 12 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成のプロセスの概要」
- 13 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成に関する計画」
- 16 ページの「SWIFTAlliance Gateway のインストールおよび構成」
- 20 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージのインストール」
- 22 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成」
- 25 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成の確認」
- 25 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターの調整」
- 27 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のデバッグ」

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の概要

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway データサービスは、Sun Cluster データサービスの適切な起動、停止、スイッチオーバー、およびフェイルオーバーのメカニズムを提供します。

注 – Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway は、ソフトウェアの障害監視は行いません。Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の HA アクティブスタンバイインストールの目的は、ハードウェア障害を検出し、それに対応することです。

フェイルオーバーデータサービスとスケラブルデータサービスの概念については、『Sun Cluster の概念 (Solaris OS 版)』を参照してください。

SWIFTAlliance Gateway の各コンポーネントは、Sun Cluster 環境に構成されている場合、それぞれのデータサービスによって保護されます。次の表を参照してください。

表 1 SWIFTAlliance Gateway コンポーネントの保護

構成要素	コンポーネントを保護するデータサービス
SWIFTNet Link	Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway
SWIFTAlliance Gateway	Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成のプロセスの概要

次の表は、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールや構成に関する作業の要約と、それらの作業の実施に必要な詳しい説明がどこにあるかを示しています。これらの作業は、表に示す順序で行う必要があります。

表 2 Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成に関する作業

作業	参照先
SWIFTAlliance Gateway のインストールの計画	13 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成に関する計画」
SWIFTAlliance Gateway のインストールおよび構成	16 ページの「SWIFTAlliance Gateway のインストールおよび構成」
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージのインストール	16 ページの「SWIFTAlliance Gateway のインストールおよび構成」

表 2 Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成に関する作業 (続き)

作業	参照先
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway データサービスの登録とデータサービスのクラスタの構成	22 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成」
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の確認	25 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成の確認」
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターの調整	25 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターの調整」
(オプション) Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のデバッグ	27 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のデバッグ」

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成に関する計画

ここでは、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成の計画について説明します。

注 – Sun Cluster ソフトウェアによって課せられていない構成の制限事項と要件については、インストールと構成を始める前に、SWIFTAlliance Gateway のマニュアルを参照してください。Sun Cluster ソフトウェアによる制約については、Sun Cluster のマニュアルを参照してください。

構成に関する制限事項

以降の節で説明する構成の制限は Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway だけに適用されます。



注意 – データサービス構成がこれらの制限事項に従わない場合、このデータサービス構成はサポートされない可能性があります。

すべてのデータサービスに適用される制限事項については、『Sun Cluster 3.1 8/05 ご使用にあたって (Solaris OS 版)』を参照してください。

- Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway は SWIFTAlliance Gateway バージョン 4.0.20 以降および 5.0 以降をサポートしています。
- フェイルオーバーファイルシステムにインストールできるのは、SWIFTNet Link と SWIFTAlliance Gateway ソフトウェアだけです。SWIFTAlliance Gateway の動作に Websphere MQ クライアントソフトウェアが必要である場合は、各ノードのローカルファイルシステムと同じパスに Websphere MQ クライアントソフトウェアをインストールしてください。デフォルトのパスは /opt/mqmq です。
- Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway をスケーラブルデータサービスとして構成することはできません。

構成に関する要件

ここで説明する構成の制約は Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway だけに適用されます。



注意 - これらの要件を満たしていないデータサービス構成は、サポートされない場合があります。

すべてのデータサービスに適用される要件については、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「Sun Cluster データサービス構成のガイドライン」を参照してください。

- Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway をフェイルオーバーデータサービスとして構成する必要があります。
- SWIFTAlliance Gateway 4.0 を実行している場合は、SWIFTAlliance Gateway の起動と停止の機能のみが含まれるオペレータプロファイルを使用して、SWIFTAlliance Gateway オペレータを作成します。このオペレータは、起動、停止、およびステータスコマンドの SWIFTAlliance Gateway への送信に使用します。セキュリティ上の理由により、アプリケーションの起動と停止には管理者プロファイルを使用しないでください。

SWIFTAlliance Gateway 5.0 を実行中である場合、SWIFTAlliance Gateway システムから `sag_system` コマンドを直接送信するためのオペレータの名前とパスワードは必要ありません。

構成上の考慮事項

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成では、構成に関する以下の点を考慮する必要があります。

リソースの依存関係

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway を構成して Sun Cluster インスタンスとその各コンポーネントを保護します。次の表に、これらのコンポーネントとその依存関係の概要を示します。

表 3 Sun Cluster コンポーネント

構成要素	依存性
SWIFTAlliance Gateway このコンポーネントには SWIFTNet Link インスタンスが含まれています。	<ul style="list-style-type: none">■ SUNW.LogicalHost リソース■ SUNW.HAStoragePlus リソース■ SUNW.scsag リソース

構成ファイルと登録スクリプト

Sun Cluster コンポーネントには、2つの構成ファイルと1つの登録スクリプトがあります。

`/opt/SUNWscsag/etc/settings.sh`

この構成ファイルには、データサービスを有効にして、SWIFTAlliance Gateway の正しいインスタンスと、必要なユーザーとパスワードの組み合わせを探すための設定が含まれています。

`/opt/SUNWscsag/util/sag_config`

この構成ファイルには、Sun Cluster フレームワークにデータサービスとアプリケーションを登録するための設定が含まれています。

`/opt/SUNWscsag/util/sag_register`

この登録スクリプトを使用すると、データサービスを登録できます。

構成計画に関する質問

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成を計画するときには、この項の質問を使用します。『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「構成のワークシート」にあるデータサービスワークシートに、質問の答えを記入してください。

- SWIFTNet 接続およびインターネット接続がありますか？インストールには SWIFT nv からのセキュリティー保護されたサーバーが必要です。
- SWIFTAlliance Gateway のライセンスキーがありますか？ない場合は、この情報を取得してください。
- SWIFTAlliance Gateway のインストールマニュアルがありますか？ない場合は、<http://www.swift.com> からこのマニュアルをダウンロードしてください。

- フェイルオーバーデータサービスとして Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway を実行する前に、次の質問に答えてください。
 - SWIFTAlliance Gateway アプリケーションリソースおよび論理ホスト名リソースにはどのリソースグループを使用しますか。
 - SWIFTAlliance Gateway リソースの論理ホスト名は何ですか。クラスタは、この論理ホスト名を通してデータサービスにアクセスします。
- システム構成ファイルをどこに置きますか。

クラスタファイルシステムではなくローカルファイルシステムを使用することのメリットとデメリットについては、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「Sun Cluster データサービス構成のガイドライン」を参照してください。

SWIFTAlliance Gateway のインストール および構成

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway を有効にして SWIFTAlliance Gateway の可用性を高めるには、インストールと構成の追加操作が必要です。これらの操作は、SWIFTAlliance Gateway の標準インストールと標準構成を補足します。

標準インストール時には、SWIFTAlliance Gateway は物理ホスト名を使用してインストールされます。クラスタ内で動作するよう SWIFTAlliance Gateway を有効にするには、SWIFTAlliance Gateway を変更して論理ホスト名を使用する必要があります。

SWIFTAlliance Gateway の標準インストールと標準構成については、<http://www.swift.com> を参照してください。

この手順を実行するには、サーバーのルートディレクトリ (アプリケーションバイナリへのパス) が必要です。バイナリは、ローカルディスクまたはクラスタファイルシステムにインストールできます。それぞれの位置のメリットとデメリットの説明については、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の第 1 章「Sun Cluster データサービスの計画」を参照してください。

▼ SWIFTAlliance Gateway のインストールおよび構成の方法

- 手順 1. SWIFTAlliance Gateway のリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g sag-rg
```

2. 論理ホストを作成します。

論理ホストは、SWIFTAlliance Gateway をインストールする前の時点で必要です。

- a. 両方のクラスタノードの `/etc/hosts` ファイルにホスト名と IP アドレスを追加します。
- b. 論理ホストを登録してから、リソースグループに論理ホストリソースを追加します。

```
# scrgadm -a -L -g sag-rg -j sag-lh-rs -l swiftgatewayhost
```

3. デバイスグループとファイルシステムを作成します。

グローバルファイルシステムも使用できますが、HASToragePlus フェイルオーバーリソースを作成して SWIFTAlliance Gateway アプリケーションと構成データを含めます。

- SWIFTAlliance Gateway のデバイスグループとファイルシステムを作成するには、『Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』の「広域デバイスとクラスタファイルシステムについての計画」を参照してください。
- HASToragePlus フェイルオーバーリソースを作成するには、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「高可用性ローカルファイルシステムの有効化」を参照してください。

この手順では、パスとして `/swift/SWIFTAlliance/Gateway` を使用します。

```
# scrgadm -a -g sag-rg -j sag-ds -t SUNW.HASToragePlus -x filesystemMountPoints=/swift
```

4. リソースグループをオンラインにして、IP アドレスと、ストレージへのアクセスを有効にします。

```
# scswitch -Z -g sag-rg
```

5. インストールの前に次のシンボリックリンクを作成します。

これらのシンボリックリンクがない場合、SWIFTAlliance Gateway アプリケーションは正しい場所にインストールされません。フェイルオーバー機能を実際に動作させるには、SWIFTAlliance Gateway アプリケーションを正しい場所にインストールする必要があります。

```
# cd /swift
# mkdir -p /swift/etc/opt/swnet
# chown -R root:system /swift/etc
# chown -R root:swnetg /swift/etc/opt/swnet
# chmod -R 0555 /swift/etc
# chmod -R 0775 /swift/etc/opt
# cd /etc/opt
# ln -s /swift/etc/opt/swnet swnet
# mkdir -p /swift/var/opt/swnet
# chown -R root:system /swift/var/
# chown -R root:swnetg /swift/var/opt/swnet
# chmod -R 0775 /swift/var
# cd /var/opt
# ln -s /swift/var/opt/swnet swnet
```

6. 必要に応じて、**Websphere MQ** クライアントのパッケージをインストールします。

Websphere MQ クライアントソフトウェアは、ゲートウェイとリモート SWIFTNet Link システム間の、接続の保証と負荷均衡を行うソフトウェアです。ユーザーがこのタイプの SWIFTAlliance Gateway のインストールを選択し、適切なライセンスが存在する場合は、Websphere MQ クライアントのパッケージをインストールします。

7. **SWIFTNet Link** をインストールします。

- SWIFTNet Link のマニュアルの指示に従ってください。SWIFTNet Link のマニュアルをダウンロードするには、<http://www.swift.com> を参照してください。
- フェイルオーバーデータサービス `/swift/sn1` のインストール先ディレクトリを指定します。 `/swift/sn1`。
- 必要に応じて、SWIFTAlliance Gateway のインストールを継続する前に、SWIFTNet Link のパッチをインストールします。

8. **SWIFTAlliance Gateway** ソフトウェアをインストールします。

- SWIFTAlliance Gateway のマニュアルの指示に従ってください。SWIFTAlliance Gateway のマニュアルをダウンロードするには、<http://www.swift.com> を参照してください。
- SWIFTAlliance Gateway ソフトウェアがリモートホストとの通信に使用する IP として、論理 IP アドレスを使用します。

9. 必要に応じて、**Websphere MQ** クライアントソフトウェアをインストールします。

Websphere MQ クライアントソフトウェアは、ゲートウェイとリモート SWIFTNet Link システム間の、接続の保証と負荷均衡を行うソフトウェアです。ユーザーがこのタイプの SWIFTAlliance Gateway のインストールを選択し、適切なライセンスが存在する場合は、Websphere MQ クライアントのパッケージをインストールします。

10. 次のシンボリックリンクを作成します。

```
# ln -s /swift/home/swnet /home/swnet
# ln -s /swift/etc/opt/swnet /etc/opt/swnet
# ln -s /swift/var/opt/swnet /var/opt/swnet
```

11. `node2` から、`node1` の `~root/` ディレクトリへ `~root/vpd.properties` ファイルをコピーします。

この情報により、将来パッチをインストールできるようになります。

次の手順 19 ページの「SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成を確認する方法」に進みます。

▼ SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成を確認する方法

SWIFTAlliance Gateway リソースグループをマスターできる各ノード上で次の手順を実行します。

手順 1. **SWIFTAlliance Gateway** リソースグループをマスターできるノードに、スーパーユーザーとしてログインします。

2. **SWIFTAlliance Gateway** リソースグループを、**手順 1** でログインしたノードに切り替えます。

```
# scswitch -z -g sag-rg -h node
```

-z リソースグループをマスターするノードを切り替えます。

-g sag-rg SWIFTAlliance Gateway リソースグループを別のノードへ切り替えるよう指定します。

-h node SWIFTAlliance Gateway リソースグループの切り替え先であるノードを指定します。

3. **SWIFTAlliance Gateway** インスタンスが起動可能であることを確認します。

```
# su - swnet
# cd /swift/SWIFTAlliance/Gateway/bin
# ./sag_bootstrap start
# ./sag_system -SagUser Administrator -SagPwd pwd-for-admin -- start
```

次のコマンドが `started` ステータスを返していれば、アプリケーションの起動に成功しています。このステータスは、SWIFTAlliance Gateway が稼働中であることを示します。

```
# ./sag_system -SagUser Administrator -SagPwd pwd-for-admin -- status system
```

4. アプリケーションの起動と停止の機能のみが含まれるオペレータプロファイルを使用して、別の **SWIFTAlliance Gateway** オペレータを作成します。

5. **SWIFTAlliance Gateway** インスタンスが停止可能であることを確認します。

```
# su - swnet
# cd /swift/SWIFTAlliance/Gateway/bin
# ./sag_bootstrap stop
```

次の手順 20 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージのインストール」に進みます。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージのインストール

Sun Cluster の初回のインストール時に Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージをインストールしなかった場合は、この手順でパッケージをインストールしてください。この手順は、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージをインストールする各クラスタノード上で個別に実行します。この手順を実行するには、Sun Cluster Agents CD-ROM が必要です。

複数のデータサービスを同時にインストールする場合は、『Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』の「ソフトウェアのインストール」に記載されている手順を実行してください。

次のインストールツールのどちらかを使用して、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージをインストールします。

- Web Start プログラム
- `scinstall` ユーティリティ

注 - Web Start プログラムは、Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 より前のリリースでは利用できません。

▼ Web Start プログラムを使用した Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージのインストール方法

Web Start プログラムは、コマンド行インタフェース (CLI) またはグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を使用して実行できます。CLI と GUI での作業の内容と手順はほとんど同じです。Web Start プログラムの詳細は、`installer(1M)` のマニュアルページを参照してください。

- 手順
1. **Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway** パッケージをインストールするクラスタノード上で、スーパーユーザーになります。
 2. (省略可能) **Web Start** プログラムを **GUI** で実行する場合は、必ず **DISPLAY** 環境変数が設定されていることを確認します。
 3. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** を挿入します。

ボリューム管理デーモン vold(1M) が実行されており、CD-ROM デバイスを管理するように構成されている場合は、デーモンによって CD-ROM が自動的に /cdrom/cdrom0 ディレクトリにマウントされます。

4. **CD-ROM の Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway** コンポーネントディレクトリに移動します。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway データサービスの Web Start プログラムは、このディレクトリに入っています。

```
# cd /cdrom/cdrom0/components/SunCluster_HA_SAG_3.1
```

5. **Web Start** プログラムを起動します。

```
# ./installer
```

6. プロンプトが表示されたら、インストールの種類を選択します。

- C ロケールのみをインストールする場合は、Typical を選択します。
- ほかのロケールをインストールする場合は、Custom を選択します。

7. 表示される手順に従って、ノードに **Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway** パッケージをインストールします。

インストールが終了すると、Web Start プログラムのインストールサマリーが出力されます。このサマリーを使用して、インストール時に Web Start によって作成されたログを確認できます。これらのログは /var/sadm/install/logs ディレクトリに置かれます。

8. **Web Start** プログラムを終了します。

9. **Sun Cluster Agents CD-ROM** を **CD-ROM** ドライブから取り出します。

- a. **CD-ROM** が使用されないように、**CD-ROM** 上のディレクトリ以外に移動します。

- b. **CD-ROM** を取り出します。

```
# eject cdrom
```

次の手順 22 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成」に進みます。

▼ `scinstall` ユーティリティーを使用して Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway パッケージをインストールする

この手順は、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway をマスターできるすべてのクラスタメンバーで実行してください。

始める前に Sun Cluster Agents CD-ROM が存在することを確認します。

- 手順
1. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** を挿入します。
 2. オプションは指定せずに、**scinstall** ユーティリティーを実行します。
`scinstall` ユーティリティーが対話型モードで起動します。
 3. メニューオプション「**Add Support for New Data Service to This Cluster Node**」を選択します。
`scinstall` ユーティリティーにより、ほかの情報を入力するためのプロンプトが表示されます。
 4. **Sun Cluster Agents CD-ROM** のパスを指定します。
ユーティリティーはこの CD をデータサービス CD-ROM として示します。
 5. インストールするデータサービスを指定します。
選択したデータサービスが `scinstall` ユーティリティーによって示され、この選択の確認が求められます。
 6. **scinstall** ユーティリティーを終了します。
 7. ドライブから **CD** を取り出します。

次の手順 [22 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成」](#)に進みます。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成

この節では、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の構成に必要な手順を説明します。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway を有効にして SWIFTAlliance Gateway の可用性を高めるには、フェイルオーバーデータサービスとして Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway データサービスを構成します。

この手順を行う前に、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway データサービスパッケージがインストールされていることを確認してください。

▼ フェイルオーバーサービスとして Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway を登録および構成する方法

次の手順で、フェイルオーバーサービスとして Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway データサービスを構成します。

手順 1. **SWIFTAlliance Gateway** のホストであるクラスタ内のノードの 1 つでスーパーユーザーになります。

2. **SUNW.gds** リソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.gds
```

```
-a  
新しい構成を追加します。
```

```
-t SUNW.HAStoragePlus  
このリソースは、SUNW.HAStoragePlus リソースタイプのインスタンスです。
```

3. **SUNW.HAStoragePlus** というリソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.HAStoragePlus
```

4. フェイルオーバーリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g sag-rg
```

5. **Sun Cluster Disk Storage** のリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j sag-ds-rs \  
-g sag-rg \  
-t SUNW.HAStoragePlus \  
-x FilesystemMountPoints=/swift
```

```
-a  
新しい構成を追加します。
```

```
-j hsp-resource  
作成するリソースの名前は hsp-resource です。
```

- g *sag-rg*
そのリソースを SWIFTAlliance Gateway リソースグループに追加するよう指定します。
- t SUNW.HAStoragePlus
このリソースは、SUNW.HAStoragePlus リソースタイプのインスタンスです。
- x filesystemmountpoints=*mountpoint-list*
ファイルシステムの有効なマウントポイントを列挙します。詳細については、SUNW.HAStoragePlus (5) のマニュアルページを参照してください。

6. Sun Cluster の論理ホスト名のリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -L -j sag-lh-rs \  
-g sag-rg \  
-l gatewayhostname
```

7. Sun Cluster Disk Storage および論理ホスト名リソースが含まれるフェイルオーバーリソースを有効にします。

```
# scswitch -Z -g sag-rg
```

8. SWIFTAlliance Gateway のリソースを作成します。

- a. `/opt/SUNWscsag/etc/settings.sh` ファイルで、ユーザー名、パスワード、およびパス変数を変更します。
このファイルの詳細については、15 ページの「構成ファイルと登録スクリプト」を参照してください。
- b. `/opt/SUNWscsag/util/sag_config` ファイルでグループ名とリソース名を変更し、必要に応じてポート番号も変更します。
このファイルの詳細については、15 ページの「構成ファイルと登録スクリプト」を参照してください。
- c. 登録スクリプトを実行して、データサービスとアプリケーションを登録します。
このスクリプトの詳細は、15 ページの「構成ファイルと登録スクリプト」を参照してください。

```
# /opt/SUNWscsag/util/sag_register
```

9. SWIFTAlliance Gateway リソースを有効にします。

```
# scswitch -e -j sag-resource-rs  
-ej hsp-resource 作成した HAStoragePlus リソースを指定します。
```

次の手順 25 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成の確認」に進みます。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成の確認

この節では、データサービスのインストールと構成が正しく行われたことを確認する手順を説明します。

▼ Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のインストールと構成を確認する

手順 1. **SWIFTAlliance Gateway** のホストであるクラスタ内のノードの 1 つでスーパーユーザーになります。

2. すべての **Sun Cluster** リソースがオンラインであることを確認します。

```
# scstat  
# scswitch -e -j resource
```

3. **Sun Cluster** リソースグループを、*node1* などの別のクラスタノードに移動します。

```
# scswitch -z -g sag-rg -h node1
```

4. *node1* で **SWIFTAlliance Gateway** が停止し、*node2* などの別のノードでアプリケーションが起動したことを確認します。

フェイルオーバーファイルシステムを使用している場合、ファイルシステムは *node1* から消え、*node2* 上にマウントされます。

次の手順 25 ページの「[Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターの調整](#)」に進みます。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターの調整

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターは次の障害を検出します。

- ノードの障害
- ネットワーク接続の障害

- ディスク接続の障害
- ノード上で起動する SWIFTAlliance Gateway アプリケーションの障害

注 – Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターは、ソフトウェアの障害を検出しません。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターは、SWIFTAlliance Gateway を表すリソースに含まれています。Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録および構成時に、このリソースを作成できます。障害は、[22 ページ](#)の「[Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成](#)」を参照してください。

障害モニターの動作は、このリソースのシステムプロパティと拡張プロパティによって制御されます。事前に設定された障害モニターの動作は、これらのプロパティのデフォルト値に基づいています。現在の動作は、ほとんどの Sun Cluster システムに適しているはずです。したがって、この動作を変更する必要がある場合にのみ、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターを調整します。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway 障害モニターの調整では、次の作業を行います。

- 障害モニターの検証間隔を設定する。
- 障害モニターの検証タイムアウトを設定する。
- 継続的な障害とみなす基準を定義する。
- リソースのフェイルオーバー動作を指定する。

これらの作業は、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成の際に行います。詳細は、次の項目を参照してください。

- [22 ページ](#)の「[Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway の登録と構成](#)」
- 『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「Sun Cluster データサービス用に障害モニターを調整する」

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のデバッグ

▼ Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway のデバッグフラグの設定方法

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway には `/opt/SUNWscsag/etc` ディレクトリにオプションファイルがあり、デバッグフラグを設定することができます。

通常、Sun Cluster ソフトウェアのデバッグ情報はログファイルには存在しません。レベルデバッグのメッセージの記録を有効にするには、`syslog.conf` ファイルを編集する必要があります。`syslog.conf` を編集して、これらのメッセージを別のファイルに記録することもできます。

手順 1. `/etc/syslog.conf` を編集します。

a. `daemon.notice` を `daemon.debug` に変更します。

`grep daemon /etc/syslog.conf` コマンドからの次の出力は、`daemon.debug` が設定されていないことを示しています。

```
grep daemon /etc/syslog.conf
*.err;kern.debug;daemon.notice;mail.crit
/var/adm/messages
*.alert;kern.err;daemon.err
operator
```

b. `syslogd` を再起動します。

```
# pkill -1 syslogd
```

`syslogd` コマンドにより、強制的にシステムログはその構成ファイルを再度読み取り、変更を説明します。

`grep daemon /etc/syslog.conf` コマンドからの次の出力は、`daemon.debug` が設定されていることを示しています。

```
grep daemon /etc/syslog.conf
*.err;kern.debug;daemon.debug;mail.crit
/var/adm/messages
*.alert;kern.err;daemon.err
operator
```

2. `/opt/SUNWscsag/etc/config` ファイルを編集します。

行 `DEBUG=` を `DEBUG=ALL` または `DEBUG=resource` に変更します。

索引

C

C ロケール, 21

D

daemon.debug, 27
daemon.notice, 27

O

/opt/SUNWscsag/etc/settings.sh ファイル, 15, 24
/opt/SUNWscsag/util/sag_config ファイル, 15, 24
/opt/SUNWscsag/util/sag_register スクリプト, 15, 24

P

prtconf -v コマンド, 9
prtdiag -v コマンド, 9
psrinfo -v コマンド, 9

S

scinstall -pv コマンド, 9
scinstall ユーティリティー, 22
showrev -p コマンド, 9

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway

インストール
scinstall ユーティリティーによる, 22
Web Start プログラムによる, 20-21
インストールの確認, 25

概要, 11-12

構成

計画, 13-16

実行, 22-24

障害モニター, 25-26

SUNW.gds リソースタイプ, 初期設定時の登録, 23

SWIFTAlliance Gateway アプリケーション

インストール, 16-19

構成, 16-19

障害モニター, 25-26

データサービスによる保護, 12

のリソースグループ

計画, 16

有効にする, 19

SWIFTNet Link, 18

syslog.conf ファイル, 27

V

/var/sadm/install/logs ディレクトリ, 21

W

Websphere MQ クライアントソフトウェア, 14, 18

Web Start プログラム, 20-21

い

依存性、リソース, 15

インストール

- Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway
scinstall ユーティリティーによる, 22
- Web Start プログラムによる, 20-21
- インストールの確認, 25
- 作成されたログファイル, 21
- SWIFTAlliance Gateway アプリケー
ション, 16-19

こ

構成

- Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Gateway
計画, 13-16
- 実行, 22-24
- SWIFTAlliance Gateway アプリケー
ション, 16-19

構成に関する要件, 14

構成ファイル, 15

コマンド、ノード情報, 9

し

システム構成ファイル、場所, 16

システムプロパティ、障害モニターへの影
響, 26

障害モニター

- SWIFTAlliance Gateway
のリソースタイプ, 25-26
- 調整, 25-26

初期設定時の登録、SUNW.gds リソースタイ
プ, 23

せ

制限事項, 13-14

ち

調整、障害モニター, 25-26

て

- ディレクトリ,
/var/sadm/install/logs, 21
- デバッグフラグ, 27

と

- 登録ファイル, 15
- トレーニング, 8

ね

ネットワークアドレス、「論理ホスト名」を参
照

ふ

- ファイル
インストールログ, 21
- システム構成, 16

ほ

保護、SWIFTAlliance Gateway アプリケー
ション, 12

り

- リソース
依存性, 15
- 論理ホスト名
計画, 16
- リソースグループ
SWIFTAlliance Gateway
計画, 16
- 有効にする, 19
- 論理ホスト名
計画, 16

リソースグループ, 論理ホスト名 (続き)
有効にする, 19
リソースタイプ
SUNW.gds、初期登録, 23
障害モニター, 25-26

ろ

ログファイル, インストール, 21
ロケール, 21
論理ホスト名
 のリソースグループ
 有効にする, 19
 のリソースホスト名
 計画, 16
リソース
 計画, 16

